

骨折外傷センターを開設しました



骨折外傷センター長
長谷川 栄寿

平素より多数のご紹介賜り感謝申し上げます。

災害医療センターは多摩地区の三次救急医療の中核を担い、とりわけ地域の最重要救急症例を優先的に収容する使命があります。

また北多摩西部地域の災害拠点病院でもあり、東京都の基幹災害拠点病院でもあります。そのため、多数の傷病者、重症外傷患者をより多く受け入れる体制を構築する事が望まれます。さらに超高齢者社会の進展に伴って、日常生活外傷が多くみられる事から当救命救急センターでは三次救急医療だけでなく、各専門診療科と連携して二次救急医療の診察

の受け入れ体制の強化に取り組んでいます。

新たな取り組みは、当院が目指す外傷システムの確立の第一歩として骨折外傷センターを設立します。平成30年5月1日より24時間365日、常時整形外科医師対応可能としました（在院困難な場合はオンコール体制）。骨折外傷センターの担当医師は、整形外科領域を専門とする救急医と整形外科医で構成され、救命救急センターの外科系医師や集中治療医との緊密なチーム医療によって運営されます。当センターを設立する事で常時、整形外科領域や外傷領域の二次救急、三次救急、（四肢の開放性骨折、脊椎骨折、骨盤骨折、テグローピング損傷、小児骨折の患者さん）の緊急度、重症度を適切に判断し、原則早期（24時間以内）に緊急手術が可能となります。

また救命救急センターを併設しており、三次救命担当医師と連携していつでも高度な医療（緊急手術）を提供できます。当院の医療体制が高い安全性と安心を提供すると認識して頂けます。多摩地区では救命救急センターに併設する骨折外傷センターの設立は初めての試みです。既に当院には外傷専門集団の存在と豊富な診療経験があります。重症骨折外傷や多くの骨折患者さんを集約し診療する事は、当院の新たな特色です。この試みはさらなる地域の救急医療に幅広く貢献でき、救急医療の質の向上に繋がる事と信じています。

引き続き災害医療センターを宜しく申し上げます。

●スタッフ

骨折外傷センター長 長谷川 栄寿（救命救急科）

松崎 英剛（整形外科）、永澤 宏一（救命救急科）、菱川 剛（救命救急科）

矢作 善之（整形外科）、小田 修平（整形外科）、高田 秋人（整形外科）

辻澤 容彦（整形外科）